

**令和7年度 第1回
蓮田市地域包括ケア推進代表者会議録（案）**

【日時】 令和7年7月22日（火）
19:00～21:05

【場所】 蓮田市役所 303～305会議室

【出席状況】

・委員顧問

| | | | | | | | |
|----|------|--------|----|----|----|--------|----|
| 委員 | 座長 | 多ヶ谷 淑美 | 出席 | 委員 | 委員 | 原 綾子 | 出席 |
| | 座長代理 | 吉川 陽子 | 出席 | | 委員 | 佐藤 晶喜 | 出席 |
| | 委員 | 本田 英明 | 出席 | | 委員 | 午来 直之 | 出席 |
| | 委員 | 上田 朋範 | 出席 | | 委員 | 茅野 俊幸 | 出席 |
| | 委員 | 吉田 浩二 | 出席 | | 委員 | 大塚 武夫 | 出席 |
| | 委員 | 真辺 紀子 | 出席 | | 委員 | 宮下 よね子 | 出席 |
| | 委員 | 稲橋 秀樹 | 出席 | 顧問 | 顧問 | 須田 秀利 | 出席 |
| | 委員 | 佐々木 祐子 | 欠席 | | 顧問 | 外山 哲也 | 出席 |
| | 委員 | 岩田 尚明 | 出席 | | 顧問 | 小川 孔美 | 出席 |

・事務局

山口市長

健康福祉部

森上部長

長寿支援課

小澤副主幹、大熊副主幹、五十嵐主任、永瀬主事

【傍聴者】 0名

1 開 会 森上部長 諸注意、資料確認

2 あ い さ つ 山口市長

3 新 任 委 員 紹 介 午来委員、原委員より一言いただく

4 議 事

（1）一般介護予防事業

～はすぴい元気体操 10年目の評価アンケートについて～

多ヶ谷座長により進行。

《資料2》に基づき、事務局より説明。

●質疑応答

（質問）

・「はすぴいスマイルフィット」について、ご説明願いたい。

（事務局）

・介護予防サポーターの事を指している。市が主催する養成講座を終えた地域住民のかたに、地域の「通いの場」で、体操の指導や参加者をつなぎ見守る役割を担っていただいている。

（委員より補足）

・講座で体操の内容や指導方法を学び、青いTシャツを着用し、前に出て体操を指導する人。

（質問）

・「フィット」という言葉をきいた時に、すぐにイメージが湧くネーミングはいかがか。

（事務局）

・「フィット」という名称は、参加するかたがみんな笑顔になれるように、市民のみなさまと一

緒に考えた。この名称を、これからもPRする必要があると本当に感じた。ご意見いただいた事を活かして、今後も活動が続けてまいりたいと思う。

●意見交換

(委員からの意見)

- ・「60歳以下の若年層の参加率が低いと課題があがっていたが、75歳以下のかたでも、働いていて時間がないと答えるかたが多い印象がある。若いかたに参加いただくことは、正直難しいとも考えている。「はすぴい元気体操」を知っていただく機会自体がないと考えられるので、「若いかたと関係する課」と連携して、「はすぴい元気体操」を知っていただく取り組みも必要と感じた。
- ・サロンもそうだが、はすぴい元気体操も1つの集団ができると、そこに新しく参加するには少し抵抗があるようなところもあるのでは。今後の課題としては、もう少し細かな集団や地域でできるような支援をしてもらえたらよいと思う。
- ・70代で働いているかたもいるし、農家のかたは80歳過ぎても現役で働いている。課題にあがった60歳以下のかたも、多分忙しくて参加が難しいのではと思う。
- ・仕事をリタイアした70、80歳の単身のかたは、1人で参加するのは難しいのではないかと感じた。地域で声を掛け合うとか、ボランティアのはすぴいスマイルフィットのかたなどから、「一緒に行きましょう」と積極的に声をかけていただく事で、参加しやすくなるのではと思った。また、「フィットになる」という事に、どんどんスポットを当てて、「みんなで教える側に回っていきましょう」という体制を確立していく事も大事だと思った。
- ・スマイルフィット養成講座で思うのは、指導する側も高齢化しているという事。若い人ほど教えるのが好きという傾向もあると思うので、教える側への声掛けも必要だと思った。また近年、屋内外問わず高齢者の転倒外傷がかなり多く、それによる救急事案がかなり多くなっている。介護予防活動を通じて筋力増強したという話もあったので、転倒予防への影響が大きいとも感じた。
- ・「60歳以下の参加率が課題」とあったが、何歳までを指すのか考えた。元気なかたは日常でトレーニングが出来るので、運動による参加に特化しなくても、ただ関わりを持って欲しいとも感じた。PTA関係で地域のかたが安全上防犯上で通学路に立ってくれていることから、中学校や小学校のカフェで行う「子供たちと一緒に給食を食べる授業」で、子どもと高齢者が関わりを持ち、そこから見守る体制につながるといった近隣の例もあった。
- ・10年目の評価アンケートで、「地域でのつながりが増えた」との回答が多いという事は、それだけ「関わりたい」と思っているかたが多いという事だと思う。話し相手がいなくなり、どこかに行きたいかたの中には、体操の内容が合わないかたもいる。囲碁や将棋のサークルに出向き、5～10分ぐらいはすぴいスマイルフィットが来て、「ちょっと体操やりませんか」という声かけをして興味を持っていただくような関わりをされると、効果的なのではないか。

(2) 地域ケア会議

～会議でみえてきた課題について～

多ヶ谷座長により進行。

《資料3、3-2》に基づき、事務局より説明。

●質疑応答

(質問)

- ・外国人がゴミ出しのルールを守らず困っているという問題に関しては、地域ケア会議でやることなのか。あるいは、市で別の窓口があるのか。

(事務局)

- ・この件は、課題抽出型地域ケア会議の場で、高齢者に限らずあがった話題。地域包括支援センターとしてまずできることを検討した結果、報告のような対応となった。行政としても、ゴミに関しては衛生組合やみどり環境課が管轄であるため、相談しながら対応をしている。

会議をきっかけとして、できる事から実施した関わりのご報告となります。

●意見交換

(委員からの意見)

- ・民生委員として地域ケア会議に関わっている立場だが、介護サービスを受けているかたは担当のケアマネジャーがいるため、元気なかたに困り事があった場合に、それをどのように助けていこうか、と対応することが多い。そういった対応が、最近、生活支援体制整備事業で形になってきている。地区ごとに困り事と対応について検討する「協議体」も立ち上がっている。支援したい気持ちはあるけれども、できる事からという事で、具体的な内容を話し合っている。
- ・自立支援型地域ケア会議には、認知症もしくは認知症を疑われているケースが多くあがってきているという印象がある。蓮田市に認知症専門病院があるので、地域のかたがうまく病院を利用するという意識をもってもらえればよいと思っている。また、病院のほうももっと地域に出て、地域のかたが相談しやすい病院になっていかなければとも感じている。
- ・地域課題の把握という点で、民生委員のかたが高齢で体調も優れずお辞めになり、後継のかたがいらない、といった地区が増えていると伺う。地域の課題を誰がどのように把握し、どのように行政含めて伝えていくのかが、大きな課題だと思う。
- ・支援者の立場で言うと、地域のかたから「移動ができない」、「買い物に行けない」といった困り事を、聞くことが多くある。そのかたに合った、一つ一つ実現ができる支援方法を調べて、提案する事が必要と感じた。
- ・地域で起こっている問題をどのように吸い上げていくかが、元々地域ケア会議の趣旨だと思う。事業としては、高齢者を対象とした会議の一つではあるが、対応は縦割りではなく横の連携が取れる事がポイントではないかと思った。

●顧問より助言

- ・皆さんの苦労をいろいろと聞かせてもらって、本当に共感します。解決できない問題ばかりが山積している。結局は1人では生きられないので、お互い様で、みんなでこの国を支え合っているという事を、子どものうちから教育していかないと、と感じます。赤ちゃんの時にみんな助けてもらい、だから同じように高齢者になってもみんなが助けるとするのは、普通のことで、人間として当たり前の事だということを、みんながわかっている事ですが、改めてやっていかないと社会がおかしくなるのではないかと日々痛感しています。

- ・はすぴい元気体操は、あまり知りませんでしたが、この事業は実施方法によっては、もっと盛り上がるコンテンツではないかと思います。はすぴい元気体操と言いつつ、内容はほぼ「はすぴい」とリンクしていないため、「はすぴい」というキャラクターを積極的に関連付けてプロモーションしていくといいと思います。中でも大事なのはSNSで、通いの場にはすぴいに来てもらって、体操している動画をアップするなど。若い人たちにSNSは非常に有効だという事がわかっていると思いますので、様々な手段を使って、取り組んでいくといいのではないのでしょうか。

地域ケア会議の問題解決手段もそうですが、例えば認知症のケアギバーがすごく少ないと思います。一つの括りではなく、様々な温度差のある場を自分で選び取れるような環境が必要だと思いますし、またそういった元々属しているグループや別の目的を持ったグループの活動に、プログラムを入れていくような事ができていけば、よりきめ細やかなピアサポートにつながっていくのではないかと思います。

- ・はすぴい元気体操について。例えば蓮田市では、農業をやるかたが多いかと思います。農業で、かがんだりするときの動きを捉えて、その地域のかたがたと連動した動きを、はすぴいと一緒にやると楽しいのではないかと考えておりました。また、孫を育てているかたも多い

と思いますが、「孫を抱っこする時も、筋力が要りますよね」といったように、体操につなげていく。「重りを使った運動です」だけではなくて、「重りの運動を続けた先には、孫がいる」といったような形で周知していくことも大切だと思いました。

また、地域ケア会議について。蓮田市では民生委員児童委員は福祉課が管轄だと思いますが、ここに出てきた課題について、縦割りとなっている他の課とどのように連動していくかはとても重要です。「蓮田市高齢者福祉計画2024」にもありますが、やはりそれを真剣にやっけていかななくてはならないのが重層的支援だと思います。地域住民の複合化した支援ニーズに対応するための場所を、いかに地域住民とみなさま専門職とを交えて議論する場を持っていけるかが、これからより重要になっていくのかと思います。

(3) 事業報告

多ヶ谷座長により進行。

・在宅医療・介護資源実態調査の比較からみる蓮田市の動向について

《資料4》に基づき、事務局より説明。

●質疑応答 質問なし

(委員からの意見)

- ・保険用語で「訪問診療」、「訪問薬剤管理指導」にあたる歯科の業務は、「在宅歯科診療」ではなく、「訪問歯科診療」と言います。

(事務局)

- ・実態調査での調査項目を「在宅歯科診療」としていた。今後、確認していく。

5 そ の 他

森上部長により進行。

●会議録及びホームページへの公開について

●令和7年度第2回会議の開催時期及び日程調整について

6 閉 会 吉川座長代理